

キノコグループの活動報告

小山 明人*

1 はじめに

きのこグループは諏訪地方のキノコ相の解明と、併せて食毒だけではない科学的なキノコの理解と普及を目的としている。

諏訪地方のキノコ相調査は明治末期の川村 (Kawamura, 1954) を始めとして、その後、大谷 (Otani et al., 1991)、吹春 (Fukiharuru et al., 2005)、種山 (Gelardi et al., 2015)、茅野市八ヶ岳総合博物館きのこグループによる紀要第 24 号, 2016、紀要第 25 号, 2017、紀要第 26 号, 2018、紀要第 27 号, 2019、糟谷他 (Kasuya et al., 2016)、下野他 (Shimono et al., 2018) において、現在、17 科 23 属 38 種となっている。本稿において 1 科 3 属 3 種記載したことから合計 18 科 26 属 41 種となった。

2 令和元年度の活動

グループは発足して 7 年目となり今年度参加者 26 名で活動を行った。昨年度同様午前は野外での観察、午後は博物館で顕微鏡的観察や記録、標本作製、一部 DNA を採取した。野外観察は吉田山にて 4 回実施し、季節ごとの変化を理解した。9 月は茅野市駅のベルビアにてきのこ展を開催し、2 日間で 330 人の来場者があった。また、長野県内のキノコを理解するため、10 月に岐阜県御嶽山山麓にて有志による合宿を行った。

今年度の標本は、今までにない標本として御嶽山のヤマブシタケなどを含む 215 点を作成し、合計 834 点となった。

3 活動の詳細

第 1 回 4 月 20 日 富士見町国界～原村

例年通り富士見町にてツバキキンカクチャワタケを観察した。その後、原村のドイツトウヒ林内でエツキクロコップタケ、マツカサキノコを観察した。午後は博物館にて顕微鏡観察を行い 6 点を標本とした。参加者 14 人。

第 2 回 4 月 21 日 博物館

この 1, 2 年、新入会員も増えてきたことからキノコの基礎を解説、公開講演会とした。会員 14 名、一般参加者 13 人。

第 3 回 5 月 18 日 茅野市 尖石青少年の森

観察会では初めてテンガイカブリタケを見る。その他、フクロシトネタケやハルシメジ類。午後は博物館において顕微鏡観察し 9 点を標本とした。参加者 17 人。

第 4 回 6 月 15 日 茅野市 吉田山

今年度第 1 回調査を行い 25 種を観察した。午後は博物館において顕微鏡観察と記録を行った。18 点を標本とした。参加者 12 人、

第 5 回 7 月 20 日 茅野市 桜平

駐車場が混むため 7:00 現地集合。標高 2000 m くらいの例年のフィールドで観察するが発生はすこぶる悪い。ニオイカワキタケ類似種など 19 種ほど観察した。10 時過ぎからは博物館にて同定と記録。10 点を標本とした。参加者 16 人。

第 6 回 8 月 25 日 茅野市 吉田山

午前はロウタケなど 17 種くらいを観察した。午後は博物館において顕微鏡観察と記録を取り 17 点を標本とした。参加者 17 人。

第 7 回 9 月 14 日 茅野市 吉田山

吉田山第 3 回調査ならびに一般の方も含む公開観察会。カメムシタケを一般参加の小学生が見つけた。翌日のきのこ展に備えて標本を採集した。午後は博物館において同定と準備を行った。参加者は会員 18 人、一般 20 人。

第 8 回 9 月 15, 16 日 茅野駅 ベルビア

茅野駅ベルビアにてきのこ展。写真パネル 25 点、キノコの展示は初日 193 種、2 日目 216 種となった。適宜展示解説を行った。持ち込まれたきのこの同定希望者は 2 日間で 15 人、来場者は 330 人だった。タマアセタケなど 5 種を標本とした。研究員は 19 人参加。

第 9 回 10 月 5, 6 日 岐阜県御嶽山日和田高原キャンプ場

北信、飯山市でのブナ林調査を 2 年間行ったので、本年と来年は御嶽山で調査を行う。キャンプ場の敷地は広く、キノコの種数も多い。ただ、本年は例年に比べて少ないとのことだった。諏訪地方で見ることがなかったジンガサドクフウセンタケやアカアシナガタケなど 66 点を標本とした。参加者 16 人。

第 10 回 11 月 10 日 茅野市 吉田山

第 4 回調査を行った。チャナメツムタケやムキタケなど晩秋のキノコの季節。午後は博物館において同定と記録を取った。参加者は 14 人。10 点を標本とした。

第 11 回 12 月 21 日 茅野市八ヶ岳総合博物館

4 月からのまとめとして各人が 1 人 5～10 分の時間の中で発表。複数の人がナラタケやノウタケを取り上げていた。発表者 14 人。

第 12 回 1 月 18 日 茅野市八ヶ岳総合博物館

昨年度の千葉県立中央博物館、吹春先生の講演会に引き続き、本年度は慶応義塾大学准教授、糟谷大河先生の講演会を行った。テーマは「本州の高山帯・亜高山帯のきのこをめぐって」。前半は生物地理学として日本の植生の特徴、ハイマツの系統地理など

*菌類懇話会事務局長

のお話。後半は高山帯・亜高山帯のきのことしてベニタケ属、チチタケ属、ドクツルタケと近縁種、マクキヌガサタケのお話だった。わかりやすい説明であった。

第13回 1月19日 茅野市八ヶ岳総合博物館

午前には紀要原稿の作成としてキサマツモドキ、クリタケ、ツバキキンカクチャワロンタケの記載文及び標本写真から線画を作成した。午後は活動発表展の打ち合わせと役割分担を決めた。

第14回 2月9日 小山自宅

キノコの紀要原稿の校正、令和2年度の採集目標と注意点、DNAの作業過程を簡略に概説した。午前中のみで終了。

第15回 3月7日 新型コロナウイルス感染予防のため中止した。

第16回 3月22日 茅野市八ヶ岳総合博物館

活動発表展 3年間の成果発表を行った。



午前中のフィールドワーク

4 来年度の活動

8年目にあたることから以下を計画した。

- ① 調査地域は昨年までの地域から対象を広げ、蓼ノ海公園や岡谷やまびこ公園、麦草峠周辺を含める。
- ② 調査は野外での生態等の写真撮影、採集、マクロ・ミクロの記録、標本作成、場合によりDNA採取を行う。
- ③ 諏訪地方のキノコ相を理解するため、御嶽山山麓で観察を行う。
- ④ 記録様式は神奈川県立生命の星・地球博物館の入生菌類資料に準拠する。
- ⑤ 展示に適切な標本は大阪市立自然史博物館に引き続き協力を仰ぎ、真空凍結乾燥標本とする。
- ⑥ 標本は原則茅野市八ヶ岳総合博物館に收藏する。
- ⑦ キノコ展は諏訪地方のキノコ食中毒予防巡回展期間に先立ち実施する。
- ⑧ 講演会を行う。
- ⑨ 市民研究員認定者を中心に諏訪地方の菌類活動に協力する。



御嶽山合宿での同定風景



講演会 慶応義塾大学准教授 糟谷大河先生

キノコグループ

荒野 民雄	市川 浩久	井村 悦子
岩波 博文	上原 裕雄	上原 妙子
牛山 雄二	岡野佐智子	糟谷 大河
川崎建次郎	木村 博	小林 智子
齋藤 和春	齊藤 雅光	齊藤 智子
清水千代江	助川 玲輔	瀧澤 國雄
遠山 俊祐	中島 年雄	藤崎 弘子
藤森 政明	牧 和宏	牧 美佳
三橋 正浩	宮坂るり子	山田 理可
山本 智子	山脇江実子	渡邊 直子

※小山 明人